

水稻の生育状況（移植）

今後平年並みの気温で推移した場合、「五百万石」の出穂期は平年並みの7月17日頃と予想されます。一方、出穂期の地域間差が大きくなる（7/14頃～7/20頃）と予想されるため、必ず出穂期を確認し、適期に防除しましょう。

また、「コシヒカリ」の茎数は平年よりやや多く、幼穂形成期は平年並みの7月10日頃と予想されます。一方、幼穂形成期の地域間差が大きい（7/7頃～7/13頃）ため、特別栽培米の穂肥は必ず幼穂形成期を確認し、適切（施用時期、施用量）に施用しましょう。



生育調査データを掲載しています。（JAなんとホームページ）→

＜なんと担い手組織協議会 事務局調査結果 移植（令和6年7月8日）＞

品 種	田植日		草丈 (cm)		茎数 (本/㎡)		葉色		葉齢 (葉)		幼穂形成期 (予想)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
コシヒカリ	5/11	5/11	73.7	71.5	518	441	4.1	4.0	12.1	11.9	(7/10)	7/10

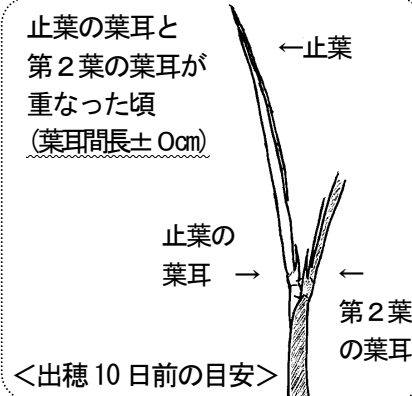
当面の管理のポイント

1 コシヒカリの穂肥 ～適切な穂肥施用で倒伏や品質低下を防ぐ～

（1） 肥効調節型(基肥一発)肥料を使用している場合

- ・ 原則、追肥は施用しません。
- ・ ただし、以下の場合には追肥しましょう。

追肥診断の目安（移植）		追肥	
確認時期	葉色	施用時期	施用量
出穂 10 日前 (7月22日頃)	4.0 未満	出穂 3 日前 (走り穂) まで	追肥 3 号 7kg/10a



（2） 分施栽培の場合

- ・ 必ず「幼穂長」、「草丈・茎数」、「葉色」を確認し、適切に穂肥を施用しましょう。
- ・ 草丈が長い、茎数が多いなど生育量が大きい場合は、1 回目は慎重に施用しましょう。また、葉色が淡い場合は2 回目を15kg/10aと多く施用しましょう。

＜穂肥施用の目安（コシヒカリ）＞（肥料：一般米「追肥 3 号」、特別栽培米「なんと米有機穂肥」）

幼穂形成期（幼穂長2mm）の生育					約1週間後		1回目		2回目	
稲の姿		草丈	葉色	茎数 (本/株) ※70株植	草丈	施用時期	10a当たり 施用量	施用時期	10a当たり 施用量	
適正	・葉が立つ ・らち間が見える	72cm 以下	3.8 以下	21本 以下		82cm 以下	幼穂長15mm ※幼穂形成期 から7日後	10kg	1回目の 1週間後	12kg 〔特裁米は 12～15kg〕
やや旺盛	・葉がややメラつく	73～ 79 cm	3.9～ 4.2	22～ 25本	83～ 84cm	幼穂長20mm ※幼穂形成期 から9日後	7kg	1回目の 1週間後	12kg 〔特裁米は 12～15kg〕	
過剰	・葉がメラつく ・らち間が見えない	80cm 以上	4.3 以上	26本 以上	85cm 以上	施用しない		幼穂長 10cm ※幼穂形成期 から13日後	12kg以下 ※生育に応じ て減肥	

農作業は熱中症対策をして行いましょう。用水周辺の作業時は転落事故等に注意しましょう。

JA なんと
メルマガの
登録は
こちらから→



2 てんこもりの穂肥 ～1回目の穂肥は遅れずに施用～

(1) 肥効調節型(基肥一発)肥料を使用している場合

・以下の場合には追肥しましょう。また、干しすぎは葉色が低下するため、注意しましょう。

生育の目安(移植)		追肥	
時期(移植)	葉色	施用時期	施用量(追肥3号)
幼穂形成期前後(7月13日頃)	4.0未満	すぐに	7kg/10a
出穂7～10日前(7月27日頃)	4.3未満	出穂3日前(走り穂)まで	10kg/10a

(2) 分施栽培の場合

・必ず「幼穂長」、「草丈・茎数」、「葉色」を確認し、適切に穂肥を施用しましょう。

＜穂肥施用の目安(移植 てんこもり)＞(肥料：追肥3号)

生育の目安(幼穂形成期)		1回目		2回目	
茎数(株当り)	葉色	施用時期	施用量	施用時期	施用量
21～25本	4.0～ 4.2	幼穂長1～2mm 7月11～13日頃	10kg/10a	1回目の 10日後	12kg/10a

3 水管理 ～干しすぎに注意！！～

- ・幼穂形成期以降は「間断かん水」から「飽水管理」に切り替え、上根の伸長と維持を図り、葉色の低下を防ぎましょう。
特に「てんこもり」は干しすぎに注意しましょう。
- ただし、「コシヒカリ」で草丈が長いなど生育量が大きい場合は「間断かん水」としましょう。
- ・出穂後20日間は「湛水管理」を徹底しましょう。



山際を中心に干しすぎのほ場が多くみられます。もう少し入水しましょう。

4 早生の病害虫防除 ～今年もカメムシ多発～

- ・散布は7日間隔を目安とし、10日以上空けないようにしましょう。
- ・適期に行い、畦畔にも薬剤を散布しましょう。
- ・風の無い時を選び、周囲の作物への飛散に注意しましょう。

＜早生の防除の目安：一般米＞(出穂期：「五百万石」7月14～20日頃、「雄山錦」7月18日頃)

防除時期	対象	防除薬剤	散布量(10a当り)	使用時期
1回目	【穂揃期】 90%出穂 五百万石：7/17～7/23頃 雄山錦：7月21日頃～	ラブサイドスタークル粉剤DL	4 kg	収穫 7日前まで
		ラブサイドスタークルフロアブル	500倍、1500 無人航空機 4倍、0.8ℓ	
2回目	【傾穂期】 1回目の1週間後	キラップ粉剤DL	4 kg	収穫 14日前まで
		キラップフロアブル	1000倍、1500 無人航空機 16倍、0.8ℓ	

水稻ほ場の周辺に雑草処理されていない大麦あとはほ場があると、2回の防除後にカメムシが水稻ほ場に侵入します。まだ大麦あとはほ場の雑草処理をしていない場合はすぐに行いましょう。

※詳細については【営農のてびき】を参照して下さい。

お問い合わせは、JA なんと営農部(62-0261)または砺波農林振興センター(32-8147)へ